

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		こころ豊かに健やかに 夢を抱いて未来を創造する生徒の育成 自ら学び 自ら考え 自ら行動			
推進主体		校長、教頭、研究推進担当、各学年研究推進担当、教育課程担当、図書館教育担当を中心として推進			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		学力向上に向けての重点的な目標			
		4月	2~3月		
		成果となる目標	具体的な行動目標		
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
		年度末評価			
		(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			
			評価		
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語 ○表現方法や漢字・言葉の意味など言語事項に関しては、おおむね習得できている。 ◆根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がある。	○学校評価アンケートの「学習指導」の項目について、生徒の肯定的評価は95%以上。保護者は90%以上。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる。今年度は、生徒同士の意見交換の場面で活用の割合、18%以上。	○学校評価アンケートで、「授業はわかりやすく、意欲的に取り組んでいる」という生徒の回答が86.3%で、わかる授業に取り組んでいる。 ○互見授業を実施して授業改善を図り、授業力を高めることができた。 ○教職員の学校評価アンケートの結果、ICT機器の活用率はたいへん高い。また学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や教材開発について、校内研究会等を通して研究と修養に努めた。 ◆個々に目標を持って、主体的に学んでいけるよう学習指導を進めていく。スモールステップで実現可能な目標が持てるようアドバイスをする。また不登校生徒の学習支援に向けての研修を充実させる。 ◆時間的なゆとりをつくり、振り返りができる機会を増やしたり、少人数のグループ学習を活用し、学び合い、高め合う雰囲気作りを行う。また、個に応じた指導や学習内容の精選を検討し、基礎基本の充実等に努める。 ◆主体的、対話的で深い学びにもつながらICT活用に係る教員のスキルに格差があるため、校内研修等を計画し実践的指導力の向上を図る。 ◆学校評価アンケートでは「家庭学習を行う習慣が身につけていると思う」と回答した生徒70.6%、保護者50%と課題を残す結果となった。家庭学習が定着するようにICT機器の活用や、課題提示の工夫を行う。	B
	算数	○「図形」「関数」の領域においては、基礎的基本的な内容の習得がおおむね出来ている。 ◆ある条件下で成り立つ図形の性質を見出し、それが成り立つ理由を筋道を立てて考え、数学的表現を用いて説明することに課題がある。 ◆文章や図、表、グラフなどのテキストを理解し、利用し、熟考する力に課題がある。	○学校評価アンケートの「学習指導」の項目について、生徒の肯定的評価は95%以上。保護者は90%以上。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる。今年度は、生徒同士の意見交換の場面で活用の割合、18%以上。	○学校評価アンケートで、「授業はわかりやすく、意欲的に取り組んでいる」という生徒の回答が86.3%で、わかる授業に取り組んでいる。 ○互見授業を実施して授業改善を図り、授業力を高めることができた。 ○教職員の学校評価アンケートの結果、ICT機器の活用率はたいへん高い。また学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や教材開発について、校内研究会等を通して研究と修養に努めた。 ◆個々に目標を持って、主体的に学んでいけるよう学習指導を進めていく。スモールステップで実現可能な目標が持てるようアドバイスをする。また不登校生徒の学習支援に向けての研修を充実させる。 ◆時間的なゆとりをつくり、振り返りができる機会を増やしたり、少人数のグループ学習を活用し、学び合い、高め合う雰囲気作りを行う。また、個に応じた指導や学習内容の精選を検討し、基礎基本の充実等に努める。 ◆主体的、対話的で深い学びにもつながらICT活用に係る教員のスキルに格差があるため、校内研修等を計画し実践的指導力の向上を図る。 ◆学校評価アンケートでは「家庭学習を行う習慣が身につけていると思う」と回答した生徒70.6%、保護者50%と課題を残す結果となった。家庭学習が定着するようにICT機器の活用や、課題提示の工夫を行う。	B
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	◆全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる一方、生徒同士の意見交換の場面で活用が進んでいない。アプリの使い方や効果的な使用場面などについて研究を重ねていきたい。	○学校評価アンケートの「学習指導」の項目について、生徒の肯定的評価は95%以上。保護者は90%以上。 ○全国学力・学習状況調査の結果から、ICT機器の使用は、授業や調べ学習において進んでいる。今年度は、生徒同士の意見交換の場面で活用の割合、18%以上。	○学校評価アンケートで、「授業はわかりやすく、意欲的に取り組んでいる」という生徒の回答が86.3%で、わかる授業に取り組んでいる。 ○互見授業を実施して授業改善を図り、授業力を高めることができた。 ○教職員の学校評価アンケートの結果、ICT機器の活用率はたいへん高い。また学んだことを主体的に活用し、応用・発展していけるような授業展開や教材開発について、校内研究会等を通して研究と修養に努めた。 ◆個々に目標を持って、主体的に学んでいけるよう学習指導を進めていく。スモールステップで実現可能な目標が持てるようアドバイスをする。また不登校生徒の学習支援に向けての研修を充実させる。 ◆時間的なゆとりをつくり、振り返りができる機会を増やしたり、少人数のグループ学習を活用し、学び合い、高め合う雰囲気作りを行う。また、個に応じた指導や学習内容の精選を検討し、基礎基本の充実等に努める。 ◆主体的、対話的で深い学びにもつながらICT活用に係る教員のスキルに格差があるため、校内研修等を計画し実践的指導力の向上を図る。 ◆学校評価アンケートでは「家庭学習を行う習慣が身につけていると思う」と回答した生徒70.6%、保護者50%と課題を残す結果となった。家庭学習が定着するようにICT機器の活用や、課題提示の工夫を行う。	B
定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学年が進むにつれて、テスト勉強に対する意識の高まりがみられる。 ○基礎的基本的な内容についてはおおむね習得している。 ◆発展的な学習や論理的に考えて説明することに課題がみられる。 ◆効果的な家庭学習を行うために、自分で計画を立てて実行させると共に、補習や課題の提供を学校全体の取り組みとして充実させる等、生徒への支援を行う必要がある。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
授業等からうかがえる状況(各教科)	○落ち着いた学習態度で真面目に取り組んでいる。多くの生徒は課題に前向きに取り組む、提出物も高い。 ◆家庭での学習習慣に一定程度の定着がみられてきたが、継続的な取り組みに課題が残る。日頃から予習、復習に主体的に取り組めるようにする必要がある。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
学力向上に慣れる等の学習習慣	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況 ○全国学力・学習状況調査では、「読書が好き」の割合は目標に達した。1,2年生で取り組んでいる朝読書が、読書に親しみきっかけになっていると考える。 ◆30分以上読書する生徒の割合は低い。読書を活かした学習活動を充実させ、日常的に本を読む環境づくりへむけて工夫したい。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○自己肯定感が高まり、夢や目標をもって前向きに生活しようとする生徒の割合が高くなっている。 ○「授業がわかりやすい」「学校生活が充実している」と肯定的に評価する生徒の割合は90%を超えている。 ◆「自分で計画を立てて学習している」の肯定的評価を高めるため、「学ぶことと自分の将来を結び付けて考えさせる」「学習に見通しを持たせて粘り強く取り組ませる」「適切な課題を提供し評価する」指導が必要である。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
研 校 修 内 の 研 究 状 況 ・ 校 内 研 修 の 状 況	校内研究の状況 ○「深い学びに向かう力を養い、確かな学力を育成する学習指導」をテーマに研究を推進している。 ◆1年生から、働くことの意義や学ぶことと自分の将来を結び付けて考える機会を設ける等、系統的なキャリア教育を推進していく。 校内研修の状況 ○互見授業や研究授業を積極的に行うことで、教師が互いに学び合う体制を築き、校内全体でICT機器を活用した授業改善に取り組んでいる。 ◆iPadをどのような場面で、何を目的に活用するのか、特に、生徒同士の意見交換の場面で活用の活用について研究していく。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	B	
家庭・地域等との状況	○コミュニティ・スクールの取り組みを進める中で、学校に対する地域の関心が高まり、教育活動への協力・支援体制が整備されてきている。 ◆放課後や夏休みを利用した学習相談、適切な課題提供や学びの指導を継続し、家庭学習の習慣化を図る必要がある。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
小・中における教科連携等の状況	○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの系統性や継続性を大切にしたい取り組みを進めている。 ○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行われている。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
家庭・地域等との状況	○コミュニティ・スクールの取り組みを進める中で、学校に対する地域の関心が高まり、教育活動への協力・支援体制が整備されてきている。 ◆放課後や夏休みを利用した学習相談、適切な課題提供や学びの指導を継続し、家庭学習の習慣化を図る必要がある。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	
小・中における教科連携等の状況	○校区の小学校と連携し、家庭学習の手引きや学びのスタンダードの作成等、9年間の学びの系統性や継続性を大切にしたい取り組みを進めている。 ○子どもの「学びのすがた」や「育ちのすがた」を共通理解して、積極的な交流が行われている。	○学校通信やHP、校外行事でのメール配信などを通して学校の様子を保護者や地域に発信する。 ○学校行事やオープンスクールを通して地域に開かれた学校づくりを進める。 ○生徒が学んだことを地域に発信する機会を設ける。 ○生徒と地域との交流や、地域活動への参加を継続する。	○学校評価アンケートでの学校の情報発信について、保護者の肯定的評価が95%に迫る高い評価を得た。HPのみならず、通信やメール配信を工夫し、積極的な情報発信を継続する。 ○「地域ふれあい美化活動」、各地域部会での『中学生の発表会』は大変好評であり、活動の工夫によって地域貢献できた。 ○全国学力・学習状況調査の「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思いますか?」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒が全国より5.1ポイント上回っていた。 ○各地域部会等の校外行事においても、生徒の発表の場を得て、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ◆学校と地域が一体となって取り組める活動を継続、熟成させていく。また、保護者や地域の方が学校に来やすくなるよう、活動を工夫し、生徒が地域に、保護者や地域の方が学校に行き来できる仕組みづくりを学校運営協議会で協議しながら行う。	A	